

— 錦織 佳代子 —

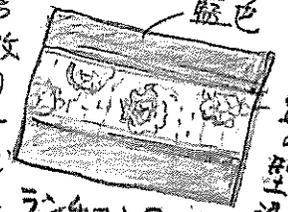


教科書に
あつた詩のこのとこだけ
今もおぼえてる

今年も紅葉がきれい、やっぱり山へも行きたくなる。(瓶か森・皿か鏡)

11月はいろいろな人に会いました。毎日のように久しぶりの友、遠くの友、何年ぶりの友も。まさか年2回飲み会仲間の庄八さんと山で会うとは、若い友と会うと話題も新鮮。一歩外に出れば

藍色の型染め古布
藍の古布をあびたら
斬り返しすてなうらな
なにが変身してマント
マントを脱ぎ捨てられ
セシスよくおぼえんと
仕上げてみる。早い！



よらゆん、音一さん
たちの催しをきくと
のぞいて、京都の名物
書店(元)がけ書房の
山下さんに初めて会った。
現在ホホホ座
並べられた本の中に
クナルプロビデを巡る
人々があふなつかしい
霧峰の山小屋の
名。山下さんは
「アルフレモ」はまこと
もご存知、私は用か
あつたゆくりおぼえし
で、すつと残念
お話したいこと
いろいろあるなあ



キャベツの甘酢漬け 作りおきできるのこのころ
切らさずつくっていい。おいしい。

キャベツ 大5~6枚
芯をうすくそぎ、4~5cm角に切る。
セロリ軸 大1本 スジも皮もとらず斜めうす切り
塩大さじ1/2 塩をふってませ、20分ほどあいて
唐辛子 1本 ごとと水気しぼる。大いボールに。
9本ほど小口切り
サラダ油 大さじ1 フライパンに油をやや熱し
辛子を入れ、酢・さとうを加え
【酢】 1/2カップ 煮立ったら野菜の上からかけ、
【さとう】 大さじ3 ほどきませながら冷ます。
私は人参、大根、
あればキュウリ、タピ
入れろ



冷そう庫で
1週間くらい大丈夫

大人が楽しむおはなし会



毎月図書館でおはなしを
してくれる直子さんが
みどり幼稚園で若いお母さん方に
おはなしや指人形などをしてくれてとてもたのしいひととき。

あわ 安房直子さんの「きつねの窓」
という長いおはなしをすっかり
覚えて、語り聞かせてくれる。みんな
感動!! ~みかさあけられた青い
かうすのような空も、いちめん青いきまゆの
花畑~もみんなありありと目に浮かび
物語の世界に誘いこまれる。
テレビやCDでなく顔を見ながら人の
声で物語を聞く心地よさ……
図書館で安房直子コレクション
を借りて読む。

●パンと昭和 小泉和子編 河出書房新社

あちこちのパン屋にも、コンビニ、スーパーにもいろん
なパンがあふれている。私はあまり買わない。
パンが日常的に食べられるようになった
のは、戦後の厳しい食糧事情とアメリカの
「小麦戦略」という大きな原因があったこと。
戦後史の重要な問題が絡んでいる。
大手パンメーカーと財閥、商社が結び
つき、苛烈な販売競争となる。輸入され
た小麦が船からハイブでサイロに送られ、
製粉。フスマは飼料工場に、粉はパンや
麺など二次工場に送られる。臨海コン
ナートで毎日大量のパンが自動的に
出来上がる。なんと「か5斤の世界おそろ
しくなる。私は何も知らなかった……」

●五つの証言 トーマス・マン 中公文庫

図書館の新刊棚にあった小さな本。
トーマスマンと渡辺一夫の名に引かれて
手にとった。とても難しい本。三度も借り直して
気になるところをノートに書き写した。
渡辺は、「一億玉砕」すらにしても、マンを
知っている人間か一人でも二人でも生き
残ればすべての可能性は保持されると思
マンの小冊子を身辺から離さず、激化する空
襲の合間に少しずつ訳した。—— 終わりの
章のタイトルは「寛容は自らを守るために
不寛容に対して不寛容になるべきか」。
何を言おうとしているのか。私は考え考え
読む。読みながら現在の世界の首脳たちが
浮かぶ。「寛容」であってほしい。威圧や反撃
に走らず。

お天気に誘われて西条市の石鏡神社へ行った。社まが上ると、古い境内に「越天楽」の
曲が波のように広がって、神殿が結婚式が行われていた。ふたりの巫子が天女のような装いで
ゆるやかに舞う……まよる？ 巫女の世界に迷いこんだような……

庭のケヤキは毎日葉を散ら
せる。ゴリさんは掃き集めて
畑の肥料に。